

教育タイムス

発行所 〒540-0024 大阪市
中央区南新町1の1の2
電話 941-1361 (代)
Fax 941-8353
株式会社 タイムス
編集発行人
山中 林之助
振替 00980-5-38607
購読料 年 9,000円

『環境倫理と環境教育』テーマに

六か国の代表が議論を展開

国際シンポ
ジウム98 (上)

甲南大学・日本環境教育学会の主催による国際シンポジウム98 (実行委員長：谷口文章・甲南大学教授) が三月二十日(金)～二十二日(日)の三日間、甲南大学(神戸市)で開催された。テーマは「環境倫理と環境教育―科学技術と人間性をめぐって―」。カナダ、オーストラリア、中国、韓国、タイから専門家が来日、日本と合わせて六か国で議論を展開した。二十日は「未来の地球環境を考える―日本と中国の連携―」をテーマにした学生会議と学生交流会、そして特別講演、二十一日には記念講演とシンポジウムⅠ、懇親会、二十日にはシンポジウムⅡ、Ⅲが行われた。その内容を、二回にわたって掲載する。

学生会議では、甲南大学や環境に配慮したライフ・スタイルの構築について、と中国北京大学の学生、大スチールの構築について、護団体が紹介された。さら

となつた。まず、中国・北京大学の田徳祥教授が「科学技術と環境倫理―中国の放射線防護政策をめぐって―」をテーマに講演。急速な経済成長期にある中国の科学技



術、特に核技術とその安全性についての議論を紹介して講演。経済成長に伴ってタイ、タイ・ラジャバト王立研究所のシリワット・ソンと農民の生活の移移について、タイの農業技術と自然の回復―と題した。タイの農業技術と自然の回復―と題した。タイの農業技術と自然の回復―と題した。

学術のナンシー・J・ターナ教授は「植物と生態系―カナダのファーストネイションの心の環境―」という演題で講演したが、カナダの環境問題とファーストネイションから学ぶ環境を配慮したライフ・スタイルについての紹介から環境倫理にまで話が展開した。また、韓国・カトリック大学の李時敏教授は「環境運動と環境教育―韓国の社会教育をめぐって―」というテーマで講演、韓国の社会運動から環境運動への変化や社会教育としての環境教育の位置づけが紹介された。オーストラリアからは、オーストラリア環境教育法、のりチャード・スミス編集長が「地球環境と環境教育―オーストラリアの環境教育の実践事例を中心に―」と題して、様々な活動をする環

